

核医学検査が開始されます

最新の SPECT-CT 装置導入

核医学検査とは

核医学検査はアイソトープ検査または RI (アールアイ) 検査とも呼ばれ、特定の臓器や組織に集まりやすい性質を持った放射性の医薬品を患者さんに投与します。投与された放射性医薬品が、目的の臓器や組織に集まったところで、そこから放出される放射線(ガンマ線)を専用のガンマカメラを用いて体外から検出し、その分布を画像化し、機能や形態を調べる検査です。放射性医薬品の分布を画像にすることをシンチグラフィといい、得られた画像をシンチグラムといいます。CT と同様の原理で断層像にしてみることもできます。

CT 検査や MRI 検査は、主に臓器の形態の異常を調べるのに対し、核医学検査は、投与された放射性医薬品の分布や集積量、経時的变化の情報から、臓器や組織の形態だけでなく、機能や代謝状態などを評価することができます。

SPECT-CT とは

SPECT-CT 装置は、ガンマカメラとマルチスライス CT が一体となった最新の装置です。すべての核医学検査を施行可能ですが、加えて CT を併用することにより、特にガリウムシンチ・骨シンチ・TI 腫瘍シンチ・肝胆道シンチ・消化管出血シンチ等核医学画像のみでは、集積部位の解剖学的位置がはっきりしない検査に威力を発揮します。一度の検査で核医学画像と CT 画像が撮影できます。

当院導入装置 Discovery NM/CT 670

高画質と安定性で定評の SPECT 装置に高画質、高速性、さらには低被ばく性能を凝縮した 16ch MDCT を高次元で合体し双方の機能を損なうことなく SPECT - CT としての臨床価値を確立しました。患者さんへの負担を最小限に抑えられる装置です。

- 短時間検査
- 低被ばく
- 高画質

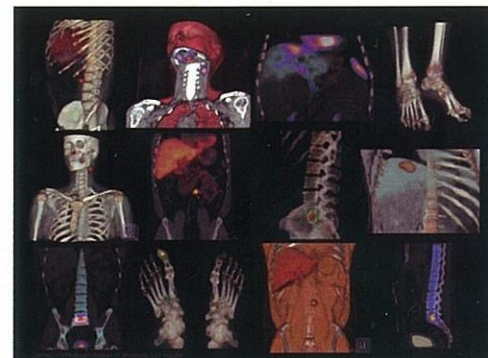


図1 RI画像とCT画像を重ね合わせた画像
重ね合わせるにより、より詳しく立体的に病変の形態や場所の特定ができます。

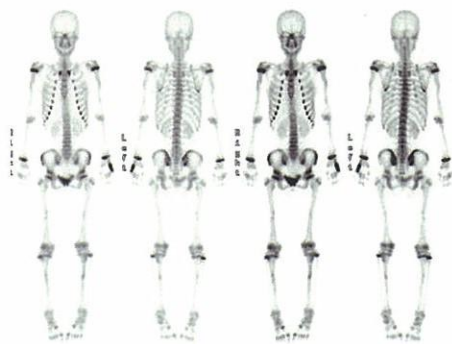


図2 骨シンチグラム画像
骨に異常がある場合(転移や骨折など)はその異常部に薬が集まってきます。

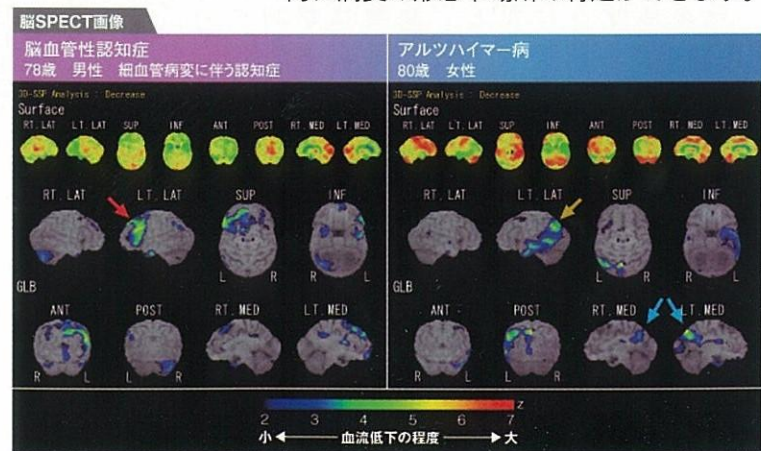


図3 脳血管性認知症患者とアルツハイマー病患者の脳 SPECT 画像
薬を投与後、撮影した画像を解析することにより、血流の低下が認められる部分の位置や程度を視覚的に評価することができます。

潤

うるおい

No. 54

2013年 10月1日発行



一般財団法人潤和リハビリテーション振興財団
潤和会記念病院

病院長 鶴田 和仁

〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地
TEL0985-47-5555 FAX0985-47-8558

http://www.junwakai.com

パートナーシップ

潤和会記念病院 総看護師長 濱砂 しのぶ



最近、「絆」、「繋がり」、「パートナーシップ」等の言葉をよく耳にします。2011年東日本大震災の後、人々は助け合い、支え合いながら大変な困難を乗り越えようとしています。人々の「絆」がクローズアップされています。宮崎の夏の祭典、「まつりえれこっちゃみやざき」の今年のスローガンは「繋」でした。混沌とした時代である今こそ、「繋がり」が大切な、必要なワードとしています。「パートナーシップ」という言葉は、「患者さんと医療者のパートナーシップ」、「PTT-官民パートナーシップ」(Public-Private Partnership)や、現在盛んに議論されている「TPP-環太平洋連携協定」(Trans-Pacific Partnership)にも使われています。

そして今、看護界ではPNSという看護ケアシステムが注目されており、取り入れている病院が多くなっています。これはパートナーシップナッシングシステムと言われるもので、福井大学医学部附属病院看護部が開発したものです。最初は福井大学病院の外科病棟の師長さんが、病棟での大きなアクシデントの発生をきっかけに考案し導入しました。それが一つの病棟から全病棟へ、そして全国へと展開されています。病棟看護は長年、「看護師が一人で複数の患者を受け持つ自己完結型」スタイルで行われてきました。その看護界の常識を覆した「二人一組」を基本とするケアシステムがPNSです。

新人とベテランでは提供する看護の質に差がありますし、患者さんは当然、ベテラン看護師にケアを受けたいと思います。このシステムでは、新人看護師でも経験豊富なパートナーと組めば十分なケアを提供することができますし、難しい場面では経験者の高い看護師が応じるので、患者さんは安心できます。新人看護師も早い時期から様々な看護場面を体験し、その場でタイムリーに指導が受けられます。新人看護師や途中入職者が早く職場に適応でき、育つス

ピードも速くなります。ベテランは常に若手教育を担い、緊張感をもって基本に立ち返ることができます。パートナーから見られることで自己流ができなくなり、指導するためにはさらに勉強をするようになります。また、二人で行うことで効率よく業務を終わらせることができ、時間的な余裕がでてきて患者さんとのコミュニケーションの時間に充てることができ、また看護師の時間外業務の減少にもつながります。このような多くのメリットがあげられており、これを開発した福井大学附属病院には、全国の病院から見学実習のために多くの看護管理者が集まっています。

このシステム導入の成功の鍵がパートナーシップマインド、つまり「相手を思いやる心」です。どんなに良いシステムを取り入れても、それを運用する人の心持が大切なのです。相手の良さを認めつつ、足りない部分を補完し合う、これがパートナーシップです。そのポイントは、相手を価値のある、尊いものとして大切に扱うこと、信じて頼りにすること、周りの状況をよく考え思いを巡らすこと(慮る:おもんばかる)です。チーム医療の推進においてもこの考え方はとても重要だと考えます。

当院看護部でも今年度このシステムを取り入れることになりました。患者さんにとっても、職員にとっても、皆が幸せになれる画期的なシステムと言われているPNS。パートナーシップマインドを全職員が持てるようになれば、もっともっと患者さんに満足していただける病院となり、職員にとってはさらに働きやすい職場になるのではないかと期待しています。私たちは「変革の意思」を持ち、「業務の工夫」を重ねながら、このシステムを大事に育てていきたいと思っています。

脳神経外科 診療実績

現在4名の脳神経外科専門医で従事しており、昨年度1年間の外来患者数は10,748名、入院患者数は1,077名、手術件数は260件でした。

入院患者数と手術件数の約半数が脳血管障害の患者さんであり宮崎市郡医療圏の脳血管障害の一旦を担っていると自負しております。

また入院された脊椎脊髄疾患患者さんの約60%が手術を受けられており、県内各地から御紹介頂き宮崎県内の脊椎脊髄疾患センターとしての責務も負っていると感じております。

しかしながら平均年齢が50歳を過ぎた脳外科医には無理が出来ません。ましてや皆、高血圧・糖尿病・高尿酸血症・不眠症等々の持病があります。

ですから若き脳外科医を募集しております。

来たれ若人！

表1. 症例数

入院数	手術数(血管内も含む)	外来数
1,077	260	10,748

表2. 疾患分類別入院患者数

脳腫瘍	17 (1.5%)
脳血管障害	546 (50.7%)
頭部外傷	151 (14.0%)
脊椎・脊髄疾患	151 (14.0%)
機能的障害	81 (7.5%)
神経系感染症	4 (3.7%)
その他	127 (11.8%)
計	1,077

表3. 術式別手術件数

開頭手術	
テント上腫瘍摘出	2
テント下腫瘍摘出	2
脳動脈瘤手術(破裂)	14
脳動脈瘤手術(未破裂)	11
頭蓋内外血管吻合術	5
頭蓋内血腫除去(CVD)	10
頭蓋内血腫除去(外傷)	4
開頭減圧術	5
神経血管減圧術	7
その他	9
小計	69 (26.5%)
穿頭手術	
頭蓋内血腫除去	48
脳室外ドレナージ	3
脳室・腹腔シャント	1
その他	1
小計	53 (20.3%)

脊椎・脊髄手術	
椎間板・椎弓後方到達法	63
椎間板・椎弓前方到達法	21
脊髄腫瘍摘出	4
その他	11
小計	99 (38.0%)
その他の手術	
内頸動脈内膜剥離術	5
L-Pシャント	9
小計	14 (0.05%)
血管内治療	
GDC(コイル塞栓術)	4
定位的放射線治療	
腫瘍	21
小計	25 (0.10%)
総計(放射線治療・血管内を除く)	235
総計(//を含む)	260

みなさんこんにちは！ 新任医師の紹介をします



作 直 彦 (さく なおひこ) 49歳

【担当科】内科、呼吸器科

【出身大学】宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)

【趣味・特技】自転車

【自己PR】

内科、呼吸器科の作です。平成2年に大学を卒業後、平成14年まで自治医科大学(栃木県)で診療をしてきました。今後少しでも皆さんのお役にたてればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

記念病院 理念

「人間愛」

— 記念病院 基本方針 —

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療の提供
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践
3. チーム医療を推進し、より良い医療の希求
4. 豊かな人間性を備えた医療人の育成
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境



患者の皆様への権利に関する宣言

当院では、患者の皆様への尊厳や人間性が尊重され、パートナーシップを強化し、以下の権利が守られることを宣言します。

1. 良質の医療を受ける権利
患者の皆様は、差別されることなく適切な医療を受ける権利を有します。
2. 選択の自由の権利
患者の皆様は、医師や病院或いは保健サービス施設を自由に選択し、変更することができます。また、いかなる段階においても別の医師の意見を求める権利を有します。
3. 自己決定権
患者の皆様は、自分自身に関わる自由な決定を行う権利を有し、それに必要な情報を得る権利を有します。
4. 意思に反する処置
患者の皆様は、意思に反する診断上の処置或いは治療は、原則的に行いません。
5. 情報に関する権利
患者の皆様は、医療上の自己の情報を得る権利を有します。また、知らされずにおく権利と自分に代わって自己の情報の提供を受ける人を選択する権利も有します。
6. 守秘に関する権利
診療の過程で得られた患者の皆様への個人情報は、全て保護されます。
7. 尊厳を得る権利
患者の皆様は、いかなる状態にあっても人格的に扱われ、尊厳をもってその生を全うする権利を有します。

潤和会記念病院 院長 鶴田 和仁

あとかき

私は休日の楽しみに友人達と食べ歩きをしています。ケーキやお菓子などの甘いものからお料理まで、美味しいテレビや雑誌で見たり人から聞いたりと、実際に食べてみたいと思いをのびします。最近では、高鍋方面へ行く途中にあるお団子屋に寄り道しました。そのお団子屋は一つ一つ小さくて何個でも食べられるサイズで、つつい食べ過ぎてしまいました。

また、綾に行った時には、夏の風物詩である素麺流しに、暑い夏を忘れる一日を過ごしました。素麺流しを楽しんだ後に、米粉で作ったお菓子やパンを売っているお店にも寄り道しました。そのお店の商品は体にもやさしくてとてもおいしかったです。素麺流しの後でお腹に余裕がなく、気になる商品全ては食べられませんでした。今度行く時には今回食べる事の出来なかった商品や季節限定の商品などを食べ尽したいと思っています。

暑い夏が終わり、私の好きな秋になりました。「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」など秋には様々な代名詞がありますが、私にとっての秋の代名詞は「食欲の秋」です。食べ歩くのにも良い気候でもあります。

秋は、秋刀魚や鮭などの魚介類、りんごやかきなどの果物、さつまいもやきのこなどの野菜や山菜と多くの旬の食材に恵まれています。また秋になると気温が下がり、体温を維持するためにより多くのエネルギーが必要となる為、体にエネルギーを蓄えようと食欲がわくのだそうです。そして、栄養価の高い食材に恵まれた秋にしっかりと食べて寒い季節に備えなさいと自然の恵みは教えてくれているのだそうです。

美味しいものを食べると知らず知らず笑顔になり、会話も増え、元気になれる気がします。皆様も美味しいものを探しに、色々な場所の色々なお店にお出かけしてみてくださいいかがでしょうか？

